

ルKサンクスと協働で行うなど、より良い形を構築していければと考えています。

●百瀬 配送に電気自動車を使ったり、使用済み容器包装をリサイクル回収したりといった、エコストアとしてのサービスも実施していきたいですね。また、お買い物を楽しみたい高齢のお客様をおもてなしできる店舗として、設備面や特に従業員はじめ店舗で働く人みんなが支援できるように努めていきます。

社会貢献が企業の存在価値 地域やお客様と一緒に 環を拡げます

●前村 地域貢献を重視する企業として、自治体との「包括協定」を進めています。地域の皆様に頼りにされる存在として、災害時の避難拠点、環境への取り組み、食育、地産地消、青少年の育成などが包括協定に盛り込まれています。行政と連携することで地域貢献をより効果的に進めたいと考え、今後、ユニーグループの店舗を展開している多くの自治体と協定を結びたいと思っています。本社のある愛知県をはじめ千葉県、岐阜県と締結済みで、神奈川県、三重県、福井県、石川県、富山県とも締結に向けて協議を進めています。

●百瀬 東日本大震災の時に、スーパーが地域に大きな貢献したことが評価されていますね。

●前村 そう、特に分かったのが、災害が起きて1～2週間に果たす役割の重要性。時間が経てばさまざまなところから支援が届きますが、それまでの間、避難場所であり必要なものを供給する基地として我々とはとても頼りにされた。つまり、一番お客様が困っている時にどう貢献できたかがポイントで、当社は幸いにして本社が中部地方にあったこともあり、どの企業よりも商品を揃えて貢献できたことで、その後、大きな支持をいただいているわけです。

●百瀬 義援金もお客様や従業員からたくさん寄せられ、日本赤十字社を通じて届けましたが、今年はベルマーク活動で東日本の子供達を応援しました。1月中旬からの1カ月間で、全店舗の店頭と事務所にベルマーク回収箱を設置したところ、325万点も集まり、ベルマークの事務局から表彰されました。ベルマークはお子さんが小学校に通っている家庭では集める習慣がありますが、卒業した後も集めていた方がたくさんいらっしゃるって、「機会を設けてくれてありがとう」と喜ばれました。また、この活動は、

メーカーと小売業がお客様と一緒に進める活動だということで、今後も継続していくことにしました。

●前村 その一つひとつの取り組み自体は非常に小さなことでも、取り組んだことの重要性をしっかりと認識し、継続すると、大きな輪になっていきます。トヨタ白川郷自然学校で2005年から取り組んでいる夏休み自然体験隊も地道な活動だけれども、大切な活動です。

●百瀬 子供環境学習は「未来を担う子供達に、地球を守ることを」体験学習してもらうことを目的に、環境部が創設されたときから取り組んでいます。毎年白川郷で開催する自然探検も2012年で8回目となり、今年も24名の子供達が自然の中でさまざまな体験をしたり、各地から集まった子供達と友達になって、楽しい3日間を過ごします。彼らが大人になった時に、地球や地域のことを考えたエコライフを選び、持続可能な社会を構築してくれることを願っています。

●前村 また、国連（ユネスコ）が定めた「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」の最終年となる2014年に、10年間の成果などを取りまとめる最終年会議が名古屋市で開催されます。2005年の愛知万博、2010年のCOP10の開催にも協力してきたユニーは、これらの経験を活かし、この最終年会議においても積極的なサポートをしていきます。

●百瀬 今年は店舗での環境学習だけではなく、小学校や児童館などへの出前授業も積極的に実施しています。地域でESDを推進する役割も果たしています。

ホールディングス化を 進めるということ

●百瀬 2013年2月に、スーパー事業、コンビニ事業が一体となった「ユニーグループ・ホールディングス」が誕生します。持ち株会社化することで、環境・地域貢献への取り組みも大きく一歩前進させたいということです。

●前村 一番は、GMSとコンビニエンスストアの境目がなくなってきた今こそ、大きなシナジーがいるということで決断をしたわけです。私は、「グループシナジーを出して、グローバルでグッドカンパニーにしよう」と、その頭文字をとって「3G」と言っていますが、その次にも「G」はあって、それは「グレート」だと思っています。これは単に大きくなりたということではなく、時間はかかるかもしれないけれども、ユニーという経営理念、

環境に対する取り組み、社会貢献への姿勢に共鳴して、その旗の下に集まっていただけるのであれば、大きな輪になっていく。3Gを4Gにしていくことができる。これが持ち株会社化する一つの大きな狙いです。

●百瀬 それは「誇り」を持った企業の集合体になりたいということですね。グループ会社内だけではなく、例えば「食品リサイクルループ」でエコ野菜を生産している地域の農家の方が「アピタで自分の顔写真のついた野菜を売っていることがうれしい」と言ってくださっています。いつもお買い物に来ていただいている農家の方が、アピタに自分の作った野菜が置かれていることを誇りだとおっしゃるのです。

●前村 それは本当にうれしいことです。そういうことから考えても、環境や地域貢献に対して地道に、そして積極的に取り組んでいくことで、お客様にアピタやピアゴ、またサークルKサンクスに買い物に行く自分を誇りに思ってもらえるようにすることが大切なテーマだと思います。そのためにも、エコマーク認定店を次々増やしていくことも大事だし、サークルKやサンクスでも認証を受けたい。

●百瀬 ユニーグループ・ホールディングスになっても、これまでの環境・社会貢献への取り組みは継続しますが、他の業界のサークルKサンクスや保険事業などと、どう連携していくかが大きな課題です。また、どんな場合でも「未来の子供達に美しい自然を残したい」という目標を掲げていくつもりです。

●前村 エコストアの先駆者として取り組んできた当社として、ぜひ、全ての関係者がやりがいを持って取り組んでもらえることと期待しています。

（インタビュー：2012年6月18日）



代表取締役社長 前村哲路（左）、
環境社会貢献部長 百瀬則子（右）

